

INFORMATION RELEASE

ミサワホーム株式会社 〒163-0833 東京都新宿区西新宿 2-4-1 Tel. 03(3349)8088 (広報直通)

2019年4月8日

災害に備えた住まいのレジリエンスを強化

CENTURY ブランドに「MISAWA-LCP」デザインモデルをラインアップ



外観イメージ

- 平常時、災害時、災害後で安心な暮らしを提供する「MISAWA-LCP」の提案強化
- 高断熱・高耐震を両立する「センチュリーモノコック構法」を採用
- 制震装置「MGEO」や被災度判定計「GAINET」、蓄熱床などの災害対策アイテムを標準設定
- 創エネ・蓄エネ設備の採用により「ZEH+レジリエンス強化事業」にも対応

ミサワホーム株式会社（代表取締役社長執行役員 磯貝匡志）は、レジリエンス強化に向けた住まいのソリューション「MISAWA - LCP(Life Continuity Performance)」の提案強化のため、木質系工業化住宅の最上位ブランド「^{センチュリー}CENTURY」に「CENTURY MISAWA - LCP デザインモデル」をラインアップします。

近年、日本では大規模な自然災害が多発しています。昨年も最大震度 7 を記録した北海道胆振東部地震や西日本を中心に発生した平成 30 年 7 月豪雨などにより、多くの被害が発生し、住まいの防災や減災に対するニーズがこれまで以上に高まってきています。また、政府も、ZEH の普及を目指した支援事業のなかに、今年度、住宅のレジリエンス強化を目的とした支援制度を新設しました。

ミサワホームは、創業以来、地震による建物の倒壊ゼロ^{※1}という実績に裏付けられた強靱な躯体性能をベースに、備蓄庫にも利用できる大収納空間「蔵」や制震装置「^{エムジエ}MGEO」、地震による建物及び地盤の被災度を計測・表示する被災度判定計「^{ガイネット}GAINET」など、災害に備えるアイテムを開発し、さまざまな提案を進めてきました。2015 年には、これらの防災・減災提案を災害時だけでなく、平常時、災害後のいずれにおいても安全・安心な暮らしを支えるための住まいのソリューション「MISAWA-LCP」として策定し、普及に努めてきました。

「CENTURY MISAWA - LCP デザインモデル」では、120mm 厚の木質パネルと高耐力仕様を採用したセンチュリーモノコック構法に、「MISAWA-LCP」の考え方を組み合わせ、非常時でも自立した生活を送ることができるようレジリエンス^{※2}を一層強化し、さらに平常時の「備える」、災害時の「守る」、災害後の「支える」の 3 つの視点から、さまざまなアイテムを追加し、安全・安心な住まいをサポートします。

（以下、標準搭載アイテム）

<備えるデザイン>

- ・備蓄した非常食を定期的に使いながら新しいものをストックする「ローリングストック収納」
- ・地震を検知すると電気を遮断し、通電火災を防ぐ「感震コンセント・感震ブレーカー」
- ・従来品に比べ、最大 1.3 倍の雨水処理能力を有する「高排水設計のサイホン樋」^{※3}
- ・停電時でも通常の 5% の明るさで 20 分間点灯し、避難に有効な「蓄電機能付きダウンライト」

<守るデザイン>

- ・地震の揺れを最大約 50% に軽減するミサワホームのオリジナル制震装置「MGEO」
- ・台風などの強風による被害を想定した「耐風仕様の屋根と軒樋」を採用
- ・平常時は防犯性を高め、強風時はガラスの飛散を抑止する「防犯ガラス」を採用

<支えるデザイン>

- ・冬期の早朝でも室温 18℃以上を保持する^{※4}潜熱蓄熱材を組み込んだ「蓄熱床」
- ・地震による建物及び地盤の被災度を計測・表示する被災度判定計「GAINET」
大きな揺れが到達する前に危険を通知し、災害時は被災度判定で安全確保をサポートします。
- ・停電時も電気が利用できる「太陽光発電システム」と「蓄電池」、「非常用コンセント」

ミサワホームは、「MISAWA-LCP」の考え方を取り入れた災害に強い住まいを積極的に展開することで、これからも安全・安心な暮らしを提供していきます。

※1 地盤に起因する被害、地震に伴う津波や火災による被害は除く。

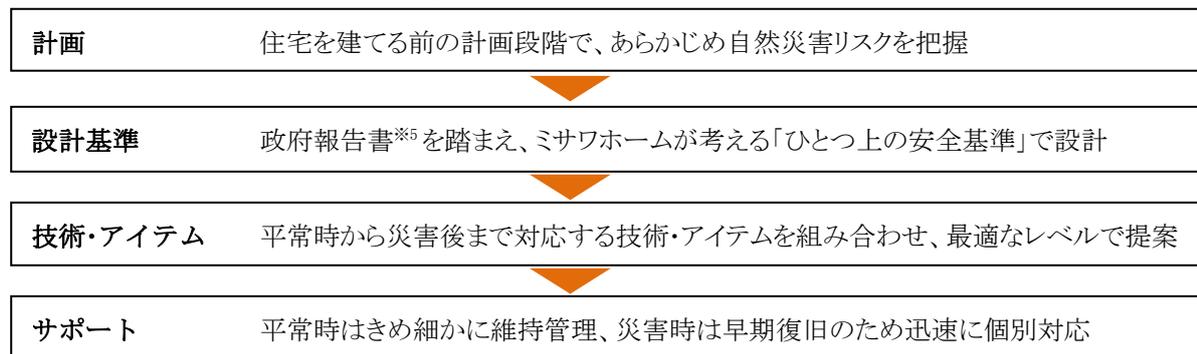
※2 自然災害など住まいが外部から刺激を受け、万が一被害があっても、一定期間自立した生活が営め、早期に平常時の生活への回復がのぞめる家。

※3 縦樋の口径を従来品よりも細くすることで、樋内に流入した雨水が一気に排水され、そのことにより生じる負圧によって、軒樋内の雨水を引き込む作用を利用したミサワホームオリジナルの樋。

※4 気象条件：東京都／計算対象：居室 1 階 LDK（18.75 畳）／評価対象室温：月別日最低室温平均値（朝 7 時起床時の室温）暖房時間：7・14、16・0 時（暖房設定温度 22℃）内部発熱：住宅事業建築主の判断基準に基づく／使用ソフト：AE-Sim/Heat Ver.40.4

■ 「MISAWA-LCP」の考え方

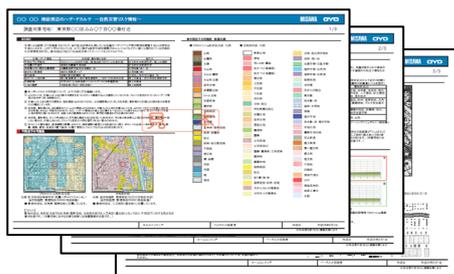
「MISAWA-LCP」は、平常時の快適な暮らしをベースに災害時、災害後のいずれにおいても、安全・安心な暮らしを支えるために、住まいの計画段階から完成後のオーナーサポートまでを含めた包括的なソリューションです。



※5：内閣府／中央防災会議「首都直下地震の被害想定と対策について」（2013年12月発表）

(1) 計画

災害リスクを想定する上で、建築地の状況や建築予定の建物の性能を把握することは重要です。「MISAWA-LCP」では、政府や研究機関などから公開されている地盤情報を利用し、建設予定地周辺で起こりうる自然災害リスクをまとめた「ハザードカルテ」や、建物プランから事前に耐震シミュレーションができる「M-Labo」を活用したリスクコミュニケーションを実施します。



ハザードカルテ



M-Labo

(2) 「MISAWA-LCP」設計基準

政府報告書を踏まえ、躯体性能やプランニング、仕様において、ひとつ上の安心基準を設定しました。

躯体性能基準	
■耐震等級3	震度7でも構造躯体が倒壊しない建物にする
■耐風等級2(風38地域)	最大瞬間風速60m/sでも倒壊しない建物にする
■耐積雪等級2(多雪100)	行政基準の1.2倍の雪の荷重に耐える建物にする
■感知警報装置設置等級4	家のどこにいても火災に早く気付けるようにする
プランニング基準	
■備蓄収納(14日分)	飲食料・日用品7～14日分の備蓄スペースを確保する
■多方向避難	安全な複数経路、水平・垂直の避難経路を設ける
■災害時の居住性(冬季室温安定化)	避難生活の健康被害を軽減する冬季最低室温を確保する
■近隣コミュニケーション	日常から家族・近隣とコミュニケーションしやすい設計にする
■浸水対応	ゲリラ豪雨、床下・床上浸水に備える
仕様基準	
■熱源の確保	生活インフラやライフライン停止・停滞時の7日間+αに及ぶ自宅避難生活を想定した備え(停電・ガス遮断・断水・下水遮断・物流停滞)
■食料の確保(家族人数×14日分)	
■上水・中水の確保	

×

《平常時》～《災害時》対応設計	
“いつも”の快適性	“もしも”への備え

(3) 技術・アイテム



センチュリーモノコック構法



備蓄の「蔵」



制震装置「MGEO」



蓄熱床



高排水設計のサイホン樋



ローリングストック収納



(表示部)

被災度判定計
「GAINET」

(4) サポート

ミサワホームでは住まいの価値を維持できるよう、構造体の初期保証を30年としています。それ以降も保証延長※6が可能のため、長く安心して暮らせます。また、万が一の事態にも的確に対応できるよう「365日・24時間体制」や台風や地震時に専門家が備える「災害時待機体制」などを整備しています。

※6 初期保証満了後は10年ごとの延長が可能です。なお、防水のみ初回が15年となります。

以上

この件に関する問い合わせ先

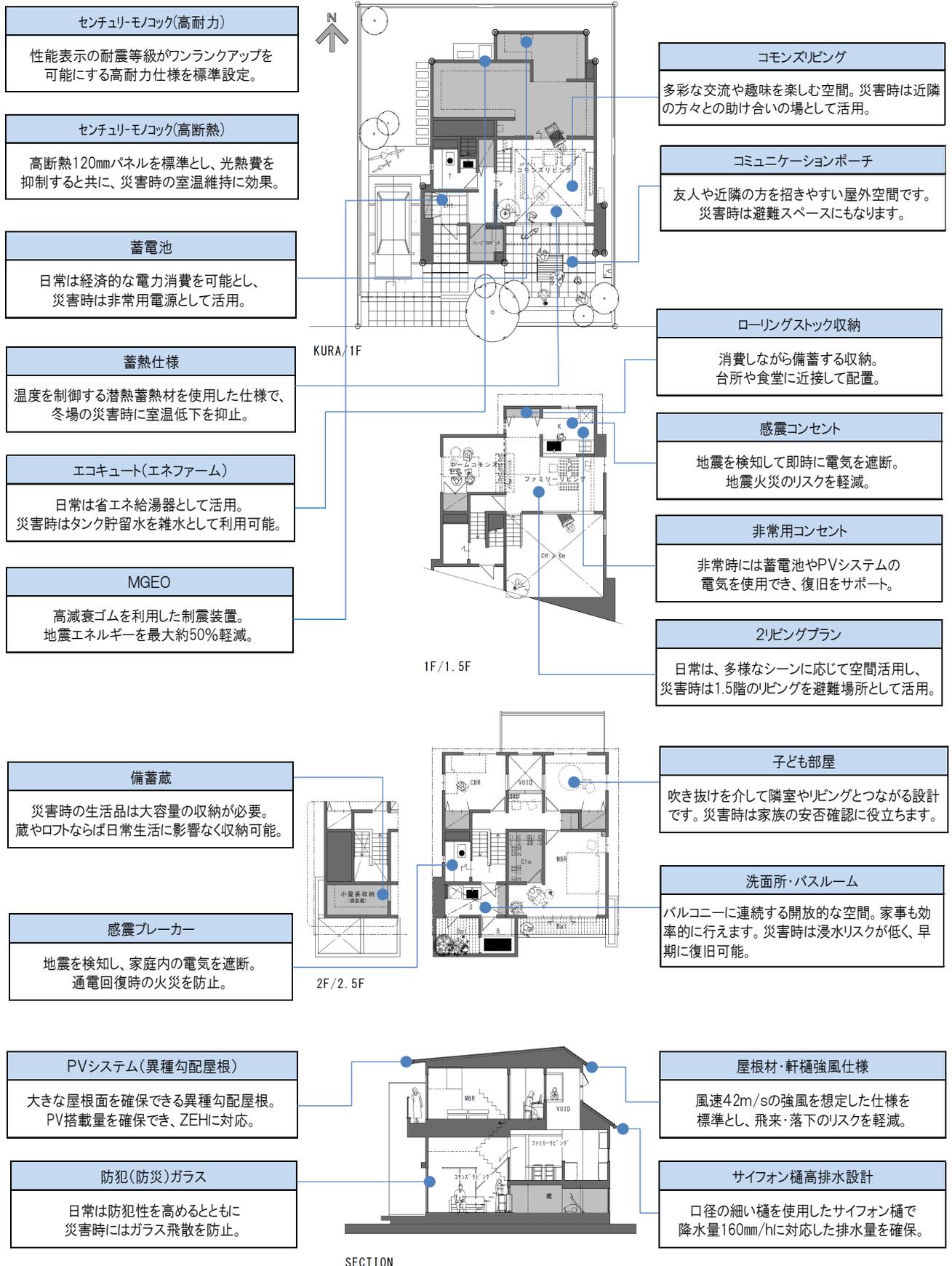
ミサワホーム(株) 経営企画部 コーポレートコミュニケーション課

奥本博之 佐野遥香

TEL 03-3349-8088 / FAX 03-5381-7838

E-mail: Haruka_Sano@home.misawa.co.jp

参考資料 (MISAWA-LCP デザインモデル)



建築面積 : 84 m² / 延床面積 144 m² / 1階床面積 76 m² / 2階床面積 68 m² / 蔵収納 34 m² / ロフト 5 m²
 ※蔵収納、ロフトは床面積に含まれません。